

近代小説 a

担当 永井聖剛

授業概要

明治・大正文学を代表する小説を史的に展望しながら、日本の近代小説が時代・社会の問題とどのように切り結んだかという問題を検証し、近代小説における典型的な主題やモチーフを作品に即して学ぶ。近代小説はいかに〈近代〉なるものを表象しているのか、代表的な作品の精読を通じて学ぶ。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 〈近代〉とはどういう時代か
- 第3回 郊外の発見・内面の発見（国木田独歩「武蔵野」①）
- 第4回 言葉と風景（国木田独歩「武蔵野」②）
- 第5回 地方・文学・青年という存在（田山花袋『田舎教師』①）
- 第6回 境界線をひくということ（田山花袋『田舎教師』②）
- 第7回 〈復讐〉による自己構築（田山花袋『田舎教師』③）
- 第8回 唱歌と盆踊の身体（田山花袋『田舎教師』④）
- 第9回 国民という主体の誕生（田山花袋『田舎教師』⑤）
- 第10回 学歴貴族の挫折（夏目漱石『彼岸過迄』①）
- 第11回 都市空間の中のテキスト（夏目漱石『彼岸過迄』②）
- 第12回 他者観察と自己言及（夏目漱石『彼岸過迄』③）
- 第13回 他者の「こころ」について（夏目漱石『彼岸過迄』④）
- 第14回 主題としての自意識（夏目漱石『彼岸過迄』⑤）
- 第15回 まとめ

コメント

当時の時代性について学び、考えながら作品を読んでいく授業です。
作品や作者についてだけでなく、当時の思想や価値観についても学ぶことができます。

評価方法

授業への参加態度（リアクションペーパーなど、A～F 評価、30%）および学期末試験（論述形式・ノートなどの持込可、A～F 評価、70%）などによって総合的に評価する。